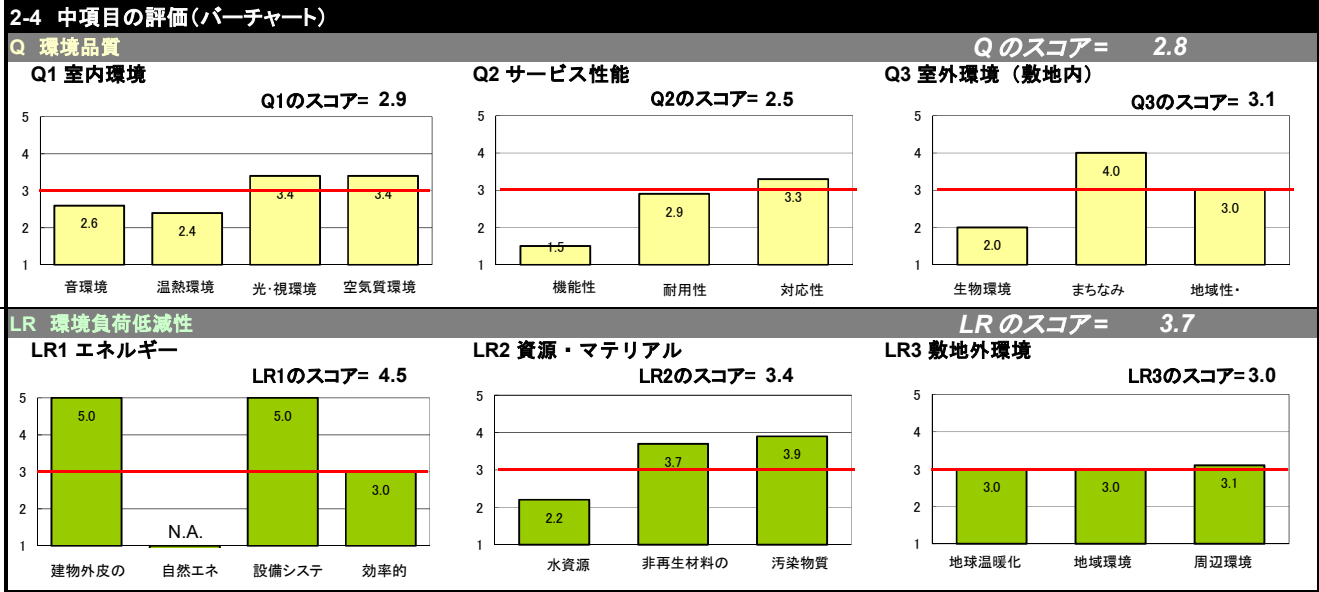
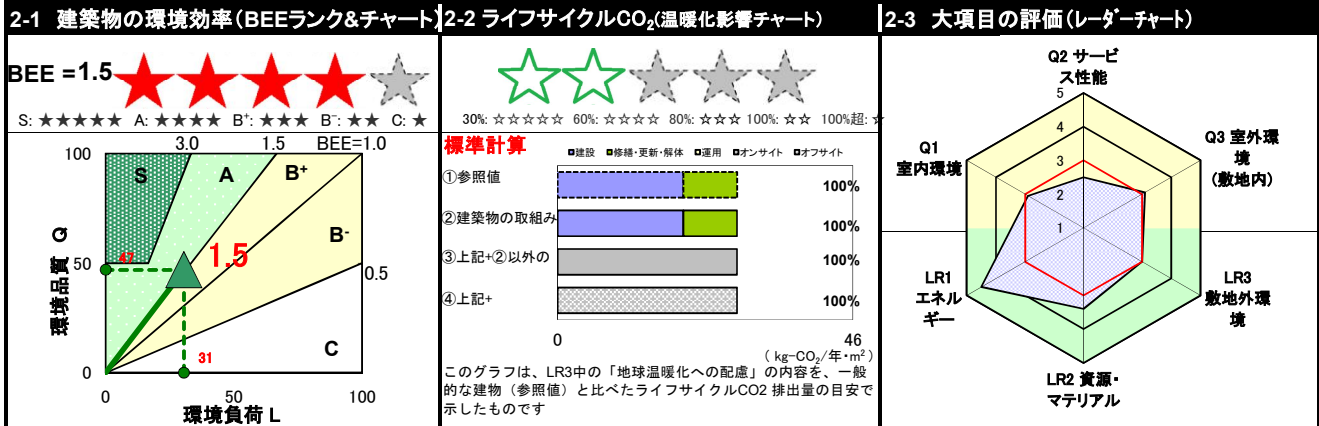


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	アーバンレジデンス福岡公園	階数		
建設地	宮城県仙台市宮城野区宮城野一丁目1-3、1-4	構造		
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員		
地域区分	5地域	年間使用時間		
建物用途	集合住宅	評価の段階		
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日		
敷地面積	874 m ²	作成者		
建築面積	334 m ²	確認日	2024年12月2日	
延床面積	3,362 m ²	確認者	株式会社集建築設計事務所	



3 設計上の配慮事項		
総合 居室は南向きとし、採光・通風を確保できる開口を設けるとともに、界壁は断熱性と遮音性を備えた乾式工法を採用している。 適切な換気設備を設けることで室内の空気質をコントロールし、各住戸の快適性を確保している。		その他 電気自動車の充電設備も設け、環境意識の高い入居者にも対応できる設備を備えている。
Q1 室内環境 昼光率を高めに設定し、また、ブラインドや底を採用するなど、光・視環境に配慮している。	Q2 サービス性能 補修必要間隔の長い仕上材、配管材を採用するなど、建物の耐用性・信頼性に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 景観への影響を検討するため、敷地北側の道路向かいにある榎ヶ岡公園や歩道からの見え方をパースで確認し、周辺環境に馴染みながら特徴のある外観を形成している。
LR1 エネルギー 省エネルギーと快適性を両立するために、外周及び各住戸間の断熱性能を上げ、高効率の設備機器を設置し、エネルギー効率の高い建築物としている。	LR2 資源・マテリアル ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
アーバンレジデンス福岡公園

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		竣工段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.8	
Q1 室内環境					0.40		-	2.9	
1 音環境				2.0	0.15	2.9	1.00	2.6	
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.50	3.0	0.50		
1.2 遮音		—		1.0	0.50	2.8	0.50		
1 開口部遮音性能		—		1.0	1.00	1.0	0.30		
2 界壁遮音性能		—		-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		洋室Lr値=45		-	-	4.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		洋室Lr値=50		-	-	4.0	0.20		
1.3 吸音		—		-	-	-	-		
2 温熱環境				1.8	0.35	2.6	1.00	2.4	
2.1 室温制御		—		2.1	0.71	3.1	0.50		
1 室温		—		1.0	0.63	2.0	0.63		
2 外皮性能		共用部分)窓Sc:0.454、窓U:1.6、外壁U:0.584、住戸)断熱等性能等級5相当		4.0	0.38	5.0	0.38		
3 ゾーン別制御性		—		-	-	-	-		
2.2 湿度制御		住戸)除湿機能を有し、熱橋となる部分は断熱補強をしている		1.0	0.29	4.0	0.20		
2.3 空調方式		—		-	-	1.0	0.30		
3 光・視環境				1.9	0.25	4.0	1.00	3.4	
3.1 屋光利用		—		3.0	0.30	4.0	0.50		
1 屋光率		住戸)1.25%≦[屋光率]		3.0	0.60	5.0	0.50		
2 方位別開口		—		-	-	3.0	0.30		
3 屋光利用設備		—		3.0	0.40	3.0	0.20		
3.2 グレア対策		—		1.0	0.30	4.0	0.50		
1 屋光制御		住戸)カーテン+庇(バルコニー)		1.0	1.00	4.0	1.00		
3.3 照度		—		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		—		1.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.6	0.25	3.3	1.00	3.4	
4.1 発生源対策		—		4.0	0.60	4.0	0.63		
1 化学汚染物質		JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用		4.0	1.00	4.0	1.00		
4.2 換気		—		3.0	0.40	2.3	0.38		
1 換気量		住戸)3.0倍の換気量		3.0	1.00	5.0	0.33		
2 自然換気性能		—		-	-	1.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		—		-	-	1.0	0.33		
4.3 運用管理		—		-	-	-	-		
1 CO ₂ の監視		—		-	-	-	-		
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.5	
1 機能性				3.3	0.40	1.0	1.00	1.5	
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	1.0	0.60		
1 広さ・収納性		—		-	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		—		-	-	1.0	1.00		
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		—		3.0	0.30	1.0	0.40		
1 広さ感・景観		—		-	-	1.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-		
3 内装計画		—		3.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		—		4.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		エレベーターホール、ゴミ集積所は清掃しやすい内装材、外部の鉄部に亜鉛メッキ処理等		4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		建物の維持管理に適切な設備を設置している		4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.9	0.30	-	-	2.9	
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		—		2.9	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		床:フローリング20年、壁:クロス20年、天井:クロス貼30年		4.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種類の2種類以上にC以上		4.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		—		2.8	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		—		2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性			3.4	0.30	3.3	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり				-	3.6	0.50	
1	1	階高のゆとり	基準階階高2.9m以上		4.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	—	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.4	1.00		-	
1	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	
	3	電気配線の更新性	配管内配線、天井ころがし配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	
	4	通信配線の更新性	配管内配線等により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.10	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			—	2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			植栽により、良好な景観を形成している等	4.0	0.40	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			—	3.0	0.30	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱等性能等級5	5.0	0.22	-	5.0
2 自然エネルギー利用			—	-	-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=0.68	5.0	0.56	-	5.0
4 効率的運用			—	3.0	0.22	-	3.0
	集合住宅以外の評価				-	-	
	4.1	モニタリング	—		-	-	
	4.2	運用管理体制	—		-	-	
	集合住宅の評価			3.0	1.00	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			—	2.2	0.20	-	2.2
	1.1	節水	—	1.0	0.40	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	—	3.0	0.60	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	1.00	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			—	3.7	0.60	-	3.7
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	磁器質タイル:エントランスホール、カーペット:廊下、断熱材:スラブ下	5.0	0.20	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別性・設備との錯綜に配慮	5.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			—	3.9	0.20	-	3.9
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材が4つある	5.0	0.30	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避	—	3.5	0.70	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつ、GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を採用	4.0	0.50	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮			—	3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮			—	3.0	0.33	-	3.0
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制	—	3.2	0.25	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	
	3	交通負荷抑制	敷地内に駐車・駐輪場・管理用車輛用スペースを配置等	5.0	0.25	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮			—	3.1	0.33	-	3.1
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止	—	3.0	0.40	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	
	2	振動	—	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制	—	3.0	0.40	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	
	2	砂塵の抑制	—		-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	
	3.3	光害の抑制	—	3.7	0.20	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストを一部満たす、広告物照明がない	4.0	0.70	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

アーバンレジデンス福岡公園

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	1.0	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0	-	○	○	○	-	○	-	-	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	8.0	-	-	○	○	-	○	-	○	-	○	○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	4.0	-	-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	4.0	-	2.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	3.0	3.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -

U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -

住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -

昼光率 -

自然換気有効開口面積率 -

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

コンセント容量 - VA/m²

天井高 - m

リフレッシュスペース - レストスペース -

想定耐用年数 - 年

想定必要間隔 - 年

想定必要間隔 - 年

想定必要間隔 - 年

階高 - m

壁長さ比率 -

床荷重 - N/m2

外構緑化指数 0% 建物緑化指数 0%

空地率 63% 水平投影面積率 1% 地表面対策面積率 4% 舗装面積率 55%

BPI/BPI_m - 断熱等性能等級 等級4を超える 相当

自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m² 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 -

通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -

BEI/BEI_m 非住宅 - 住宅 - 太陽光 - 太陽熱等 - 蓄電池 -

雨水利用率 0.0%

特定調達品目 磁器質タイル、断熱エコマーク商品 カーペット 自治体指定の特定品目等 -

使用比率 -

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -

見付面積比 159% 隣棟間隔指標Rw 0.26

地表面対策面積率 3.8% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積S_b 412m² 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s 22 m 基準高さH_b 11.79 m

緑地 m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²